

2022年2月17日

「誰もが自分に合ったメンタルヘルスケアを安心して使うために」 メンタルヘルスケアアプリを評価するデータベースの開発を目指して 3月1日(火)10時~クラウドファンディングが新たにスタート！

❖ 概要

大阪大学大学院人間科学研究科 村中誠司助教、福島県立医科大学医学部 健康リスクコミュニケーション学講座 竹林由武助教、川崎医療福祉大学医療福祉学部 臨床心理学科 横光健吾助教、関西学院大学文学研究科 大学院生の高階光梨さんの研究グループは、メンタルヘルスケアアプリの安全性を評価する仕組みづくりを行うプロジェクトを立ち上げました。そのための資金として、3月1日(火)10時より「READY FOR」にてクラウドファンディングを開始します。

<https://readyfor.jp/projects/mhealth-app-db>

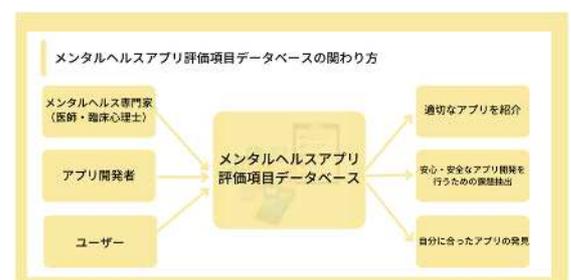


図 メンタルヘルスアプリ評価項目データベースと社会との関わり

コロナ禍により生じた大きな生活の変化に伴い、メンタルヘルス不調の訴えが増加しました。これを受けて、感染リスクが比較的低い、情報通信技術 (Information Communication Technology: ICT) を活用したメンタルヘルスケアへのニーズが高まりました。このニーズを受けて、メンタルヘルスアプリ開発が盛んになり、数多のアプリがリリースされています。しかしながら、その数の多さと多様さゆえに、メンタルヘルス不調者にとって、どのアプリが自分に合っているのか、効果が期待できるのかがわからず、安全なアプリを安心して選択することができない状況にあります。

今回、村中助教らの研究グループは、アメリカ精神医学会 (American Psychiatric Association: APA) の App Evaluation Model をベースに米国の研究チーム The Division of Digital Psychiatry で公開されているメンタルヘルスアプリ評価の仕組みを日本で運用できるように、日本版の評価項目の開発とアプリ評価データベースの開発を推進するプロジェクトを立ち上げました。アプリ評価データベースは、アプリを活用してメンタルヘルス不調の改善を試みる臨床心理士など心理支援の専門家や、まだ専門家にはつながっていないメンタルヘルス不調者にとって、どのアプリを利用することが安全で効果的かを判断する一助となることが期待されます。

❖ 背景

2020年2月から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、私達の生活は大きく変わりました。従来は対面で実施してきたカウンセリング等、メンタルヘルスケアの形もこの変化に適応しなければならない事態となりました。適応の一つの形が遠隔心理支援です。これは、ビデオ会議システムやSNSなど、情報技術を活用して支援するものを指します。メンタルヘルスケアを目的とするスマートフォン

アプリケーションも遠隔心理支援の一つです。遠隔心理支援に対するニーズは、限られた支援者数で支援サービスを届ける必要性や、外出が困難な方への支援により高まっていますが、コロナ禍でさらに需要が高まりました。

❖ 内容

村中助教らの研究グループは、アメリカ精神医学会(American Psychiatric Association: APA)の App Evaluation Model をベースに米国の研究チーム The Division of Digital Psychiatry で公開されているメンタルヘルスアプリ評価項目を日本で運用できるよう、日本版の評価項目の開発とアプリ評価データベースの開発を推進するプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは評価項目の開発のために、専門家の意見を集約する方法の一つであるデルファイ調査^{※1}を実施する予定です。その調査実施費用を捻出するため、この度クラウドファンディングを行い、支援を募ることとしました。すでに、APA の評価項目の日本語訳の作成が完了しており、この後、45 名の専門家の協力を募り、日本版として、日本人や日本の制度等に合った評価項目であるかを評価することを目指します。

❖ 社会に与える影響

本プロジェクトにより、日本で配信されている数多のメンタルヘルスケアアプリのうち、安心・安全で、ニーズに合ったアプリを探すための判断基準が明らかになることが期待されます。また、本プロジェクトの展望として、実際にアプリ評価を行った評価データを蓄積したデータベースの構築を見据えており、将来的にはメンタルヘルス不調の状態にあったメンタルヘルスケアアプリを提案するサービスに展開することを考えています。

これらの活動を通して得られる成果物である、アプリ評価項目やアプリ評価データベースが、①メンタルヘルスケア専門家にとっての、「効果が示された安全なアプリを提案するための指標」、②メンタルヘルスアプリ開発者にとっての、「ユーザーに安心して利用してもらえ、効果的なアプリの開発を行うための指針」、③メンタルヘルス不調に悩むユーザーにとっての、「自分の今の状況の改善に有効で安全なアプリを選択するための判断基準」となることが期待されます。

❖ 特記事項

本プロジェクトは、クラウドファンディングサイト「READYFOR」で、下記の通り 3 月 1 日(火)10 時(日本時間)に公開されます。

・タイトル: “誰もが自分に合ったメンタルヘルスアプリを安心して使うために”

・URL: <https://readyfor.jp/projects/mhealth-app-db>

・第一目標金額: 200 万円、第二目標金額: 500 万円

・募集期間: 2022 年 3 月 1 日(火)10 時~ 4 月 15 日(金)23 時 45 日間

・資金使途:

① デルファイ調査実施費用: 様々な専門家との合意形成を元に評価項目を完成させるための調査

② メンタルヘルスアプリ評価についての Web ページ開発費: 評価項目を専用 Web ページで公開

③ アプリ評価データベースの構築、Web ページへの導入: ②Web ページをメンタルヘルスケアアプリの評価情報のデータベースとして発展させ、安心・安全なアプリの紹介をできるシステムの構築

・形式: All or Nothing 形式

※All or Nothing 形式は、期間内に集まった支援総額が目標金額に到達した場合にのみ、実行者が支援金を受け取れる仕組みです。

Press Release

なお、本プロジェクトは「大阪大学人間科学部・人間科学研究科創立 50 周年記念事業」の一環として行われています。

❖ 用語説明

※1 デルファイ調査

研究者と調査対象領域の専門家(本プロジェクトであれば、メンタルヘルスアプリ開発者やメンタルヘルスアプリを使った研究の実践経験のある研究者など)との間で反復的にアンケートを実施して、組織的に集約・洗練することを目指す意見収束技法。科学技術の将来展望に関する議論でも実施される。

<https://www.nistep.go.jp/research/scisip/delphisearch>

<https://www.itmedia.co.jp/im/articles/0805/26/news130.html>

【村中助教のコメント】

このプロジェクトを通して、一人でも多くの方に「自分に合っている」「気持ち楽になれている」と感じられるアプリと出会えて、メンタルヘルスケアサービスが届きやすい社会の実現に近づきたいと思っています。ご支援の程、よろしくお願い致します。

❖ 近日開催予定のセミナー

イベント名:

【クラウドファンディング開始記念】mHealth Apps 特別講演「メンタルヘルス × デジタルの今を知る」

日時:2022年3月4日(金)17:00-18:30

参加方法:オンライン

概要:メンタルヘルスアプリ評価項目の紹介に関するイベントです。

URL:<https://mhealthapps2.peatix.com><近日公開予定>

❖ SDGs目標



❖ 参考 URL

村中誠司 助教 研究者総覧 URL <https://rd.iai.osaka-u.ac.jp/ja/6cec574268ce7fca.html>